

西光

第172号
お十夜号

平成29年
11月5日発行



浄土宗西山禪林寺派

雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142



煩惱や苦しみの多いこの世で十日十夜、善行をする功德は、
迷いのない仏の国で千日間にあたらしく善行を行うことよりも勝る
(十夜の由来 『無量寿経』)

お十夜法要

11月25日(土)

13:00～ 十夜会のお勤め

13:30～ 塔婆回向

14:00～ お説教

休憩(お茶・お菓子をご用意しております)

15:00～ 塔婆回向

説教師

岐阜県岐阜市

だいごじ

醍醐寺 住職

なかにしはくほう

中西博邦師

お土産にお十夜名物、たいそう大きな豆ご飯おにぎりがありますよ♪

ころに ゆとりを



「最もせっかちな都道府県はどこでしょうか？」

あるデータによると、一位は神奈川県民だそうです。二位以下は首都圏、近畿各県が続きます。せっかちというのは歩行の内どれだけ早歩きをしているかという早歩き率のことで、神奈川は早歩き率に加え、一日の合計の歩行数も一位だそうです。

私は昔、サラリーマンをしていた頃、横浜に三年程住んでいました。毎朝通勤で横浜駅の構内を横切るので、それは今思うとものすごい光景です。そこには早歩きの人しか存在できないのです。朝の通勤通学の時間は皆進む方向が定まっていますからその方向に向けて無心に早歩きするわけで、人と人の前後の間隔が極端に狭いのです。人が規則正しくかつ高速で進むことが前提になっているのです。「どっ

ちに行こうかな」なんて思っている悠長な旅行者などは寄せ付けない殺気がそこには漂っています。お互いに速度が速いのでぶつかった時の衝撃も強いのですが、皆慣れもあって多少ぶつかったも詫びたり、相手を気遣うこともそんなにありません。速く歩くというより、人の波に乗らねばならないという外的な要因によって「早く歩かされている」といった方がよいのかもかもしれません。今はその頃に比べ自分自身早歩きは格段に減ったと思います。しかしせっかちな性分はなかなか抜けきりません。

日本はどうしても車優先社会で、横断歩道に歩行者がいても止まる車はあまりいないように思います。歩行者の方もつい車が優先と思ってしまいがちです。分かってはいてもより強いものに遠慮してしまうのです。横断歩道では先に歩行者を行かせてあげるといふ当たり前のことをするだけでも、せっかちな運転が抑制される上、歩行者から「ありがとうございます」と頭を下げて頂き、こちらでもいいえといふって手をあげるといふ血の通った人と人の

やりとりができます。狭い道で道を譲り合いするのも同じです。それはつまり相手のことを考えられるほどのころのゆとり、余裕があるかどうかということ。お先にどうぞという何気ない気遣いの行為が実は心を相手に施すという心施しんせ、布施行ふせぎやうという立派な仏道修行の一つになっています。

「忙」という字があります。左のりっしんべんは心という意味。右の「亡」は亡ぶ、亡くすという意味。つまり忙しくしていると心が亡くなるといふ。忙しくなるのは仕方がありません。しかし「自分は忙しい身なんだから、急いでるんだから」と思い始めるとそれはすでに心が亡くなっています。せめてその忙しい自分の心の中に、少しでも他の人の気持ちを入れてやれる空間を作ってあげること。ここにゆとりをもてることだと思っています。



気になることは



「命日」と「お逮夜」

今回はよく使う言葉なのに分かって
いるようで実はよく分からない「命日」
と「お逮夜」という言葉を今一度確認し
ておこうと思います。

まずは「命日」です。亡くなった日の
ことを命終忌日の略で「命日」といいま
す。毎月の命日のことを「月命日」とい
います。十一月五日に亡くなった人であ
れば、月命日は一月五日、二月五日…
十二月五日となります。中でも特に亡く
なったその日のことを「祥月命日」とい
います。この場合だと十一月五日のこと
です。祥は「正」に通じる言葉で、祥月
というのは当たりの月という意味です。

次は「(お)逮夜」です。西光寺では
毎月のお参り(月参り)は月命日の日、
もしくはその前日にお参りしています。
このお参りを便宜上お逮夜と呼んでい
ますが、正確にはお逮夜は前日のお参り

を指します。逮夜の「逮」は及ぶ(逮ぶ)
という意味で、逮夜は明日に逮ぶ夜、つ
まり前夜お参りをして次の日を迎える、
いわばお待ちつけのお参りです。ですの
で本当は前の日の夜にお参りさせて頂
かないといけないのかもしれませんが。

本来は葬儀の前日の夜、つまりお通夜
のことを逮夜といっておりますが、今
では広く年忌法要、月命日、中陰の初七
日、満中陰のそれぞれ前日の意味にも
転用されています。月命日にしろ中陰に
しろまさにその日のことを正当日とい
い、その正当日の前日のことを逮夜日
といいます。西光寺では中陰のお参りも
基本的には逮夜日参り、つまり二七日の
前日：七七日の前日といったお参りの
仕方をしております。よく「法事は亡く
なった日より遅れない方がよい」といわ
れるのも、このお参りをしてその日を迎
えるということ为先人は大切にしてく
たからかもしれません。

亡くなった日の前日にお参りするお
家が多いので、よく前日のことを命日だ
と勘違いされますが、命日は亡くなった
その日のことをいいます。祭りに宵宮↓
本宮があるように、お参りもお逮夜↓命
日という流れがあるのです。

読めば読むほど混乱してきていませ
んでしょつか(笑)。いずれにせよ日に
ちにこだわらずぎるより、お参りするこ
とに意義があります。誕生日を過ぎてし
まっても、遅れてもちゃんと祝って
もらえる嬉しいものです。ほとけさま
も同じです。

京都の秋は永観堂

今年ももみじの季節がやってきまし
た。西光寺でも本山の永観堂へもみ
じツアーをしたいのはやまやまなの
ですが、この時期の京都はなかなか
行く勇気がでません。運がよければ
期間中は法話会や雅楽演奏などの催
しにも出逢えます。寺宝展と夜間の
ライトアップは十一月七日～十二月
六日までです。



「山」とは？

中国、日本とも寺院の多くが山に造られたことから、〇〇山にある〇〇寺と呼ぶようになりました。例えば比叡山延暦寺、高野山金剛峰寺など。それが平地にある寺院にも波及し、寺名の前に雲龍山西光寺のように山号がどの寺にもつくようになりました。

ですので「山」＝「寺」ということになります。例えば寺に行くことを登山、お寺の正門は山門、お寺を建てることは開山。大きなお寺などにある開山堂というのはそのお寺を建てた初代住職を祀るお堂です。



新たに住職に就任するにあたって行う儀式を晋山式といいます。晋はすすむ、山は寺の意味で、新しく住職として寺に入ることです。先の『西光』でもお知らせしました通り、先代の遷化に伴い、五月二日付けで住職の辞令は既に頂いておりますが、いわば入籍は済ませただけでも、まだ披露宴をしていないようなもので、この度先代の一周忌も

【予告】晋山式

平成三十年

四月二十一日(土)

終えた四月二十一日に晋山式を行う運びとなりました。

晋山式では新住職とともに法要に参加して頂くお稚児さんを募集いたします。町内を練り歩いたり、法要に参加して仏様に花をお供えしたりと、仏のこどもとして式典に華を添えて頂ければ大変光栄です。西光寺ではお稚児さんに出て頂く法要はこの先十年以上ありませんので、今回の機会をお見逃しのないよう！お稚児さんが少ないと新住職が悲しみます（泣）ご家族揃ってお参り頂ければ幸いです。

尚、お稚児さん募集の詳細は次の新年号の『西光』でご案内いたします。

懐かしの先代住職の晋山式の一コマ (昭和51年10月31日)

先代が西光寺の新住職として晋山式を行ったのは今から四十年前も前のことになります。先代は昔から全然顔が変わっていないように思えます（笑）

写真は、立宿といって総代の家でお勤めを終えた後、そこから西光寺までお練りをして歩いていき、開門の式を経て、新たな住職として寺に足を踏み入れている様子です。住職の傍には式全般のお世話をお願いしている若き日の中西玄禮、ご法主の姿も見えます。

この時はお稚児さんは出ていないようですが、今回はたくさんのお稚児さんに出て頂きたいと思います。



お十夜のお説教師さん



今回のお説教師
さんは岐阜の醍醐
寺住職の中西博邦
師。住職になる前
にはフランスで外

交官をされていた国際派僧侶です。また大変なアイデアマンであり、自坊では日本茶を楽しむ会、お寺コガ、みほとけ塗り絵の会、韋駄天まつりなど様々な催しを開催されています。前回お越し頂いたのは三年前でした。今回どんなお話しが聞けるのか大変楽しみです。

匂い袋づくりレポート



お香を通して香りの世界に親しむ企画「匂い袋づくり」は初の試みでしたが、おかげさまで十月二日、二十八日両日とも多くの方にご参加頂きました。

私も実際にやりながら大変勉強させて頂いております。漢方薬を飲む時に成分表をみて「お、これはお香の原料にも

入っている成分だ」とか、焼香をして「このお香は〇〇の成分が強めだな」などと一人でニヤニヤしてしまつたのです。

お香は仏祀りに欠かせないものですが、それだけで終わってしまつてはもったいないものです。もっと生活の中に取り入れて楽しめるものです。玄関に入つてお香のほのかな香りに迎えられると何か顔がほころび幸せな気分になります。アロマオイルも捨てがたいですが、お香も是非仲間に加えてあげてください。また香りシリーズやろうと思います。お楽しみに。



十月のことば

(門前掲示板より)

腹がたつたら

十まで数えよ

うんと腹がたつたら

百まで数えよ

イライラしながら百まで数えてはいけません。余計イライラします。そのことからいったん離れてみるということだと思います。腹がたつてすぐにする行為は仕返しや復讐でしかありません。腹がたつた時こそ、少し時間をおくと、今更怒るのがあほらしくなったり、時には腹がたつたのも忘れてしまうことさえあります。うんとこらえて、のんびり十まで数えて、負の連鎖を断ち切る勇気を。

「こころにゆとりを」です。



十一月のことば

(門前掲示板より)

雑用という用はない

以前、本山に行った際にトイレの前に貼ってあり、なるほどなうと心に残っておりました。シスターの渡辺和子さんのことばです。渡辺和子さんといえば『置かれた場所で咲きなさい』がベストセラーになったことは記憶に新しい。このことばで思い出されるのが、同じく牧師の河野進さんの詩。

使命

まっ黒いぞうきんで
顔はふけない
まっ白いハンカチで
足はふけない
用途がちがうだけ
使命のおとさに
変わりがない
ハンカチよ たかぶるな
ぞうきんよ ひがむな

【寺務日誌より】

9月19日 兵庫青年会法式研究会
9月23日 大塩町戦没者慰霊祭 於養源寺
9月24日 当山 秋彼岸会
10月2日 匂い袋づくり
10月18日 たつの市普音寺内室通夜
10月25日 善導忌門中声会 於時光寺
10月28日 匂い袋づくり
11月5日 飾磨 救隣寺十夜会出仕

【平成30年度 年忌表】

1周忌 平成29年没
3回忌 平成28年没
7回忌 平成24年没
13回忌 平成18年没
17回忌 平成14年没
25回忌 平成6年没
33回忌 昭和61年没
50回忌 昭和44年没

来年は上記の年にお亡くなりになられた方の年忌法要があたっております。特に土・日・祝日の午前中は早くに予約が入ります。法事を予定される日がお決まりになり次第早めにご連絡頂ければ幸いです。尚、年忌があたっておられる方には別紙にてご案内しております。



【ご逝去の報】

慎んでお悔み申し上げます。生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

曾 根 岩田千津貴さん（69歳）10月1日没
西 庄 森脇良一さん（77歳）10月8日没

【寺子屋】

11月28日（火）・12月21日（木）
1月25日（木）

いずれも午後1時半～午後3時

毎回赤いお経の本（浄土宗西山勤行式）の練習や解説もしています。

【除夜の鐘】

12月31日は除夜の鐘をどうぞ撞きにきて下さい。この鐘も昔は毎日朝夕に撞いておりましたが、今は一年にこの大晦日だけしか撞かなくなりました。鐘も皆様をお待ちしております。思いっきり煩惱を吹き飛ばし、気持ちよく新年をお迎えしましょう。本堂では新年のお勤め（修正会^{しゅしやうえ}）を行っています。除夜の鐘で年送りをされたら、そのまま引き続いて本堂で仏様に新年のご挨拶をなさってください。午後11時40分頃に開門いたします。

年末年始、どうぞ健やかにお過ごしください。来年も何卒よろしくお願い申し上げます。

